



## 2月を振り返って

2月21日(水)プロアナウンサーであり、様々な企業でも話し方講座の講師を務められている、大橋照子先生を講師にお招きして「話し方講座及び演習」を行うことができました。毎年受講生には大好評の講座ですが、今年も対面でのコミュニケーションのスキルとマインドについて、多くの示唆を得ることができた講座でした。教職は、生徒や同僚と日々コミュニケーションを重ねていくことが求められる職です。その意味でも、コミュニケーションのスキルとマインドは重要な資質と言えるでしょう。学生時代にたくさんのコミュニケーションを経験して、しっかりと資質を磨いていきましょう。受講生の感想を載せておきます。

- ・貴重な体験をさせていただきました。声の出し方や、様々な意識すべきことを学ぶことができ、以前より少しだけ面接や集団討論のイメージや、これから自分が取り組むべきことが明確になってきました。ありがとうございました。
- ・集団討論では、司会に徹するでもなく、自分の意見も言いつつ集団の意見を引き出していくことはまだ難しいと感じました。相手から話題を振られなくても、自分から話題に入っていけるように練習したいと思います。
- ・どうすればアガらずに大きな声で話せるのかとても勉強になりました。私は人前で話すときにいつも声が小さくなってしまっているので、毎日発声練習をして、話すのが上手になりたいと思いました。集団討論は初めての経験で、なかなか自分の言いたいことをうまく伝えられなかったけれど、これから練習を重ねて、スムーズに議論ができるように心がけていきたいと思います。
- ・今回はかなり緊張してしまい、どうしても自信なさげな話し方になってしまいました。しっかり準備をしていく中で自信が持てるように練習をしていこうと思いました。自分の弱点を客観的に知ることができていい経験になりました。
- ・集団討論は、意見を戦わせる場ではなく、参加者全員で力を合わせて合意形成を図っていくことが大切であることがわかりました。自分と違う意見の人がいたらどうしよう、と不安に思っていました。周囲の人の意見の良い部分は積極的に認めて取り入れていくことで、少しずつ修正していけばいいという事がわかり、精神的に少し楽な気持ちで臨むことができそうです。

## 3月の予定

個人面接演習が始まっています。すでに演習に参加した人もいると思いますが、3月も4日(月)、5日(火)、11日(月)、12日(火)の日程で演習を行います。まだ受講枠には余裕がありますので、参加希望がある方は早めに教職課程センターに連絡し予約してください。また集団討論演習も設定しています。こちらは4人以上そろった場合に実施します。日程は3月13日(水)～3月27日(水)です。特に埼玉県、千葉県・千葉市での選考受験を考えている方は、この機会にぜひ参加してほしいと思っています。

## ★個人面接演習

2月28日(水)～3月12日(火) 西館演習室1

## ★集団討論演習

3月13日(水)～3月27日(水) 西館演習室1



## 話し言葉の誤用、間違った表現について

世間一般で交わされている日常会話の中には、年長者が聞いた時に、明らかに「おかしい」と感じたり、年長者に対して「失礼な」表現が含まれていたりすることがあります。私も学生の皆さんとの面接の場面や会話の中で、「その表現は使わないほうがいい」と感じることがあります。教員採用選考面接においても、企業での入社選考面接においても、面接官は皆さんよりも年長者であり、目上の人物です。そんな目上の人物に対して、不快感や違和感を抱かせないために、正しい表現が使えるように意識してほしいと思います。今月は、私が誤用だと考える表現の例と、それに対する正しい表現の一覧を示します。普段自分が使っている表現とどこが違うのか考えてみてください。公式な場面で正しい表現が使えるように意識していきましょう。

誤用	正解	理由
～になります	～です	なる＝成る、は変化を表す動詞で、そもそも敬語ではない。
～という形になります。	～です。～ということになります。	形のないものに形をつけている。
よろしかったでしょうか。	よろしいでしょうか。	既成の物や過去の出来事ではない。
了解しました。	承知しました。かしこまりました。	「了解」は上から目線で尊敬の念が含まれていない。
なるほど。	勉強になります。確かにその通りですね。	「なるほど」は目下の人に使う表現
感心しました。	感動いたしました。感銘を受けました。	「感心」は目下又は同等の人に対して使う言葉
そうですね。	そう思います。おっしゃる通りです。	肯定か否定かわからない。意見がない人と受け止められる。
おっしゃられました。	おっしゃいました。	「おっしゃる」+「られる」なので二重敬語
ほぼほぼ	あらかた おおよそ おおむね ほとんど	程度がわからずストレスを感じさせる。
校長先生様	校長、〇〇校長（苗字）	長は敬語の意味を含む。（二重敬語）
〇〇様でございますか。	ご本人様でいらっしゃいますか。	「ございます」は「ある」の尊敬語
ご苦労様です。	お疲れ様です。	ご苦労様は上が下をねぎらう言葉、下が上に使うことは失礼
参考になります。	勉強になります。	参考にするのは上、勉強するのが下
大丈夫です。	差し支えありません。問題ありません。	何が大丈夫なのかわからない。
結構です。	肯定：問題ありません。否定：必要ありません。	肯定か否定かわからない。
すみません。	申し訳ございません。	謝罪の気持ち弱い。
知りません。	存じ上げません。	尊敬の気持ちを感じられない。
行きます。	伺います。	尊敬の気持ちを感じられない。
伺わせていただきます。	伺います。	伺う+させていただく（二重謙讓語）
ご覧になられましたか。	ご覧いただきましたか。	ご覧になる+られる（二重敬語）
お休みをいただいております。	休みを取っております。	休みは取るもの。身内の休みに「お」はつけない
拝見させていただきました。	拝見しました。	させていただく＝こちらが恩恵を受ける場合の謙讓語
申しあげておきます。	申し伝えます。	「申す」＝「言う」の謙讓語。上司にへりくだる言い回しとなる
（お客様を）お連れしました。	（お客様が）お見えになりました。	お客の前では「来る」の尊敬語である「お見えになる」を使う。
どちらにいたしますか。	どちらになさいますか。	「いたします」＝「する」の謙讓語。「なさる」＝「する」の尊敬語

ウントダウンの時期ですね。教員としてあるいは会社員として間もなく配属先も決まることでしょう。今月号ではそんな皆さんに向けて、着任までにぜひ取り組んでおいてほしいことについて特集していきます。

### 1. 自分史を整理して、教員として、また社会人としてと譲れない「核」を作っておく。

皆さんは9年間の義務教育を終えて、さらに7年間の高等教育、専門教育を受けて今日に至ります。その間に様々な学びがあり、体験があり、自分自身の成長を実感できるエピソードがあったはず。まず自分が歩んできた道のりを振り返り、**今までに獲得した経験や価値を時系列で書き出してみてください。**これから皆さんが社会人として取り組んでいく全ての活動は、皆さんの経験に裏打ちされてこそ、相手に伝わります。

次に書き出した経験の中から、これは自分の「核」になっているな、と思う経験を絞り込んでみましょう。**最後に残った、どうしても譲れない経験**こそが、皆さんの社会人としての原点であり、自分がこれから関っていく生徒や顧客たちに一番伝えたいメッセージとなるはずです。

### 2. 職業観・仕事に対する信念を確立しよう。またそれを生徒（顧客）に伝えるための言葉をもとう。

「言葉」は大切です。皆さんは新人、初任者ではありますが、生徒（顧客）から見たら先輩と同じように「私たちの担任の先生」「私たちの担当者」なのです。特に教員の場合は、生徒たちより先にいろいろな経験を積んでいる「先生」として語るのですから、**ふれずに自信をもって、子どもたちの目をしっかり見て語り掛けてください。**新入社員の場合も、自社の商品やサービスについて自信を持って語れるだけの準備をしておきましょう。

### 3. 保護者や顧客の信頼を得るために。

保護者とのコミュニケーションも大切です。こちらは大人同士でしかも人生の先輩方なので、「初任者ではありませんが、子どもたちの成長のために精一杯頑張ります」というメッセージが伝わればOKです。保護者になめられてはいけない、とか先輩なのでへりくだって接する、などの必要はありません。たとえ経験はなくても皆さんはすでに「教育のプロ」として保護者の前に立っているのです。**「教育のプロ」の意識をもって、どのような学級にしたいのか、どのような教育をしたいのか、どのような生徒を育てたいのか、自分の決意や情熱を、静かに語ってください。**信頼は後からついてくるものです。まずは熱意を態度で示していきましょう。

### 4. 配属校の学区（配属先の地域）の雰囲気を知っておく。

配属校が決まったら、ぜひやっておきたいことがあります。それは学区の地域を知っておくことです。着任すると、仕事が忙しくなるので、家と学校をただ毎日行ったり来たりしているだけという状況になります。しかし公立学校は地域とともに存在しています。生徒たちは、毎日そこで生活し、その土地で育っているのですから、そんな地域のさまざまな環境を知ることは、皆さんがこれからいろいろな教育活動を進めていく上で極めて重要になります。

地域には地域ごとに根付いている文化や風習、そこに暮らしている人々の気質など、地域の独自性が必ず存在しています。そんな雰囲気をぜひ肌で感じておいてほしいのです。私も現職時代は、異動が決まると、必ず3月中に新しい勤務校の学区を歩いて、雰囲気を味わうようにしていました。予定をしっかりと立てて取り組むということではなく、時間が空いた時にふらっと立ち寄ってみればよいと思います。公園、商店街、工場、遊技場、図書館などの施設、塾の有無といったものの確認から、交差点、交番、消火器、AEDのある場所、交通状況など、生徒たちの安全に関わる施設・設備の確認なども、地域を知る上で重要です。

また公園や商店街などで過ごしている生徒たちの様子を見てもいいでしょう。生徒たちの特徴があらかじめつかめるかもしれませんね。さらに、今後学習活動を進めて行く上でも地域を知ることは重要です。総合的な学習の時間や探求の時間、学級活動などの指導にあたっては、学校がある地域をよく知っておくことが、役に立ちます。実は**地域を知っておくことで、学校に関する多くの情報が得られる**ものなのです。



## 教材研究って何？

教師としての皆さんの最大の使命は、当然ですが「授業」を行うことです。「授業」で扱う内容は、学習指導要領に示されていて、皆さんが使う教科書は学習指導要領に対応して編集されているので、基本的に「授業」は教科書を中心に進めていくことになります。しかしよく言われることなのですが、「教科書を教える」ことは授業とは呼べません。授業と呼ぶのであれば、「教科書で教える」ことが大切です。教科書を読み聞かせたり、板書したり、という作業だけでは到底「授業」とは呼べません。なぜならば、そこにはリアルな【教材】としての価値が提供されていないからです。実は、ここに「授業」の本質がよく現れています。「授業」と呼ぶためには、教科書に記載されている内容を「どうやって」教えるかが大変重要なのです。

教科書に記載されていることは「事実」ではあるのですが、そこに子どもたちの「実感」はありません。教科書に記載されていることが【教材】となり、子どもたちに共感を持って受け入れられるためには、そこに授業者自身の体験を通した【価値づけ】が絶対に必要だからです。では【価値づけ】とはいったいどのような作業なのでしょう。

例えば、

### 【教科書の記述】

「気体になった水を水蒸気と呼び、水が気体になる状態変化を気化と呼ぶ。逆に水蒸気が水に変化することは凝結と呼ぶ。このような状態変化は気温や圧力の変化と大きく関係している」



この教科書の記述をそのまま生徒たちに読み聞かせても、書き写させても「ふ〜〜ん」で終わりです。おそらく何の印象も無いだろうし、生徒達の記憶にも全く残らないことでしょう。

そこでこの教材に命を吹き込んで、生徒たちにとってのリアルな【教材】にアレンジすることが、授業者の重要な役割であり、この作業を私たちは【教材研究】と呼んでいます。具体的には、授業者である自分の体験や生徒たちの生活体験と関連付けて、イメージさせるような発問を考えることが大切です。

例えば

### 【生徒たちの生活体験】

- 冬になると、吐いた息が白くなる。
- 息を鏡に吹きかけると、鏡が白く曇るけど、しばらくすれば曇りは消える。
- よく冷やした缶ジュースを冷蔵庫から取り出すと、缶がしっとり濡れてきた。



生徒たちの生活体験を踏まえた授業者による発問例

「夏は吐いた息は目に見えないけれど、冬に息を吐くと白く見えるよね。なぜ冬になると吐く息は白いのかな？」

「鏡に息を吹きかけると鏡が白く曇るけど、すぐに曇りは消えてしまうよね。鏡の表面で何が起きていると思う？」

「よく冷えた缶ジュースを冷蔵庫から取り出すと、缶の表面が濡れてくるよね。あれってジュースが缶からしみだしているのかな？」

こんな発問を考え、予想される回答を想定し、さらに追加の発問を考えていく…こんな作業を行いながら、「どんな実験・観察を計画してみようか」とか「生徒たちもこんな体験はしているはずだよな」など思いを巡らせていながら、指導案は出来上がっていきます。大切なのは、生徒たちの実態に合わせて発問の内容や、タイミング、伝えるべき内容や伝え方について『思いを巡らせる』ことなのです。この『思いを巡らせる』作業にとっても値打ちがあるわけで、この作業を通して初めて教材がリアルなものへと生まれ変わり、教科書の記述に命が吹き込まれるのです。